

強者の戦略

東大日本史のみかた 47 [解答編]

こんにちは。日本史の岡上です。さて、今回は 1707 (宝永 4) 年に発生した富士山の大噴火とその被災地を復興する際の幕府の対応をテーマにした出題でした。「被災地の復興と政治のあり方」は現代にも通じるテーマであり、それを日本史の出題を通じて考えさせるセンスは、さすが東大といった感じですね。

ちなみに今回のテーマも教科書には、富士山が噴火したこと、被災地復興のために幕府が「諸国高役金」を徴収したことくらいしか言及がないため、知識もさることながら資料文を読み解き、深く思考することで質の高い解答が作成できたのではないかと思います。

それでは解説を始めていきましょう。

<17 世紀後半以降の幕府財政>

設問

A 幕府が (1) (4) のような対応をとる背景となった 17 世紀後半以降の幕府財政上の問題について、2 行以内で述べなさい。

問われているのは、17 世紀後半以降の幕府財政上の問題について。条件として幕府が (1) (4) のような対応をとる背景を考える必要があります。

まずは、資料文 (1) (4) から幕府の対応を確認していきましょう。

(1) 1707 年に富士山が大噴火して広範囲に砂(火山灰)が降り、砂はさらに川に流れ込んで大きな被害をもたらした。幕府は、砂除川^{すなよけかわざらい} 俊奉行を任命するとともに、「近年出費がかさんでおり、砂が積もった村々の御救も必要」として、全国の村々から「諸国高役金」を徴収した。

(4) 幕府に上納された約 49 万両の「諸国高役金」のうち、被災地の救済に使われたことがはっきりしているのは 6 万両余にすぎなかった。その 6 万両の大半は酒匂川の工事にあてられた。

資料文 (1) では 1707 年の富士山の大噴火に際し、幕府が全国の村々から「諸国高役金」を徴収したこと、資料文 (4) ではその「諸国高役金」約 49 万両のうち 6 万両余しか被災地の救済に使われなかったことが指摘されています。富士山の大噴火に際し、幕府は自らの財政では対応できず、また被災地の救済の名目で集めた「諸国高役金」ですら、そのほとんどが被災地の救済には充てられなかったことから、当時の幕府が財政難に陥っていたことがわかります。すなわち、「17 世紀後半以降の幕府財政上の問題」というのが「財政難」であることは明白ですね。

あとは幕府が財政難に陥っていた理由を説明すれ

強者の戦略

ばいいのですが、資料文には特に言及されていないので、ここは知識で解答を作成するほかなさそうです。

17世紀後半といえば5代将軍徳川綱吉の政権が成立した元禄期ですね。元禄期の幕府財政に関しては、以下のようなことを知っておく必要があります。

- ①佐渡鉱山などの金銀の産出量が減少し、幕府財政の収入が減少した
- ②明暦の大火後の江戸城と市街の再建費用、さらに相次ぐ寺社造営費用により幕府財政が逼迫した
- ③勘定吟味役（のちに勘定奉行）の荻原重秀は、金の含有率を減らした小判を発行（貨幣改鋳）することで幕府財政の収入を増加させたが、その結果、物価騰貴を引き起こした

あとは上記をまとめて解答を作成すればいいのですが、幕府が財政難に陥った理由を述べるという観点から①と②の内容をまとめることができればよいと思います（③は財政難に対する方策であり、また指定文字数も2行（60字）と厳しいので）。

【解答例】

A 金銀産出量の減少による収入減、明暦の大火後の江戸復興費用や寺社造営費用などの支出増加により、幕府は財政難に陥っていた。（60字）

＜幕府による被災地の救済＞

設問

B 被災地の救済にあたって幕府はどのような方針をとり、それにはどのような問題があったか。(2)(3)のように対応が異なる理由に注意して、3行以内で述べなさい。

問われているのは、被災地の救済にあたって幕府はどのような方針をとったのか、またそれにどのような問題があったか。条件として(2)(3)のように対応が異なる理由に注意することが求められています。

まず被災地の状況については、資料文(1)に「1707年に富士山が大噴火して広範囲に砂（火山灰）が降り、砂はさらに川に流れ込んで大きな被害をもたらした」という一文があります。これに対して、幕府はどのような救済の方針をとったのでしょうか。ここから資料文(2)(3)を確認していきませんが、問題には「対応が異なる理由に注意して」とありますので、資料文(2)(3)の「異なる」（＝対比となっている）ポイントを考えながら読んでいきましょう。

(2) 豊かな足柄平野を潤す酒匂川^{さかわ}では、上流から砂が流れ込んで堆積し、氾濫の危険性が高まっていた。幕府は他地域の大名にも費用を分担させ、最も危険な箇所を補強する工事を緊急に行ったが、砂の除去が不十分で堤が切れ、下流域で洪水が繰り返された。

(3) 砂が最も深く積もったのは、酒匂川上流の冷涼な富士山麓の村々であった。砂除には莫大な費用が見込まれたが、幕府からの手当はわずかであり、一部の田畑を潰して砂を捨てていた。後には砂を流す水路の開削費用が支給されるようになったものの、捨てた砂は酒匂川に流れ込み、下流部に堆積してしまった。

強者の戦略

少し長い文章になるので、ぼんやり読んでみると異なる(=対比となっている)ポイントを見落としてしまうかもしれません。そんな時は以下のような表にまとめてみることで、文章の構造が見抜きやすくなります。

	資料文(2)	資料文(3)
場所	豊かな足柄平野を潤す酒匂川(の流域)	酒匂川上流の冷涼な富士山麓の村々
状況	上流から砂が流れ込んで堆積し、氾濫の危険性が高まる	砂が最も深く積もった
幕府の対応	他地域の大名にも費用を分担させ、最も危険な箇所を補強する工事を緊急に行った	・砂除には莫大な費用が見込まれたが、幕府からの手当はわずかであった ・一部の田畑を潰して砂を捨てていたが、後には砂を流す水路の開削費用を支給した
結果	砂の除去が不十分で堤が切れ、下流域で洪水が繰り返された	捨てた砂は酒匂川に流れ込み、下流部に堆積してしまった

このようにまとめてみると、幕府の対応が全く異なることがわかりますよね。

幕府は資料文(2)の足柄平野においては他地域の大名にも費用を負担させ、最も危険な箇所を補強する工事を緊急で行った一方、資料文(3)の富士山麓の村々においては莫大な費用が見込まれるにも関わらず手当をわずかしか出さませんでした。そして、富士山麓の村々が一部の田畑を潰して砂を捨てていたことを受け、後になって砂を流す水路の開削費用を支給するなど、対応が後手に回っていることが読み取れます。では、この差はいったい何に起因するのでしょうか。

これも作成した表の「場所」からわかるのですが対比的な語句として「豊かな足柄平野」・「冷涼な富士山麓」に注目をすべきでしょう。平野部と山麓部の違いはなんでしょうか。そう、**平野部は農業生産(=石高)が多く、山麓は農業に適していない場所**といえますね。つまり**幕府は被害の状況で復興の優先順位をつけるのではなく**(実際、富士山麓の村々は「砂が最も深く積もった」=被害が最も甚大であったとあります)、**幕府財政に影響が大きい、石高の多い場所の復興を優先**したのです。被害を受けた人々よりも、財政優先。何だかどこかで聞いたことのあるような話ですね…。

最後にこのような幕府の方針にどのような問題があったのかを見ていきましょう。ここは作成した表の「結果」の箇所を見てもらいたいのですが、足柄平野では砂の除去が不十分で堤が切れ、下流域で洪水が繰り返され、富士山麓では捨てた砂が酒匂川に流れ込み、下流部に堆積してしまったとあります。こうしてみると、**上流の富士山麓での後手に回った救済策**(一部の田畑を潰して捨てていた砂を、水路を開削して流す)**が、下流の足柄平野での河川の氾濫・洪水を引き起こしていた**ことがわかります。つまり、**幕府の財政重視の方針とその場しのぎの対応が被災地全体を見通したものではなかったために、復興が進まなかった**ことがわかるのです。これまた身につまされるような内容ですね…。

以上をまとめて、解答を作成します。

B 幕府は被災地の救済にあたり財政を重視したため、被害の甚大な山麓部より、石高が多い平野部の対策を優先した。そのため被災地全体を見通した対策がとられず、被災地の復興は進まなかった。(89字)

さて、みなさんの解答はいかがだったでしょうか？

論述問題の解答はもちろん一つではありませんの

強者の戦略

で、「これはどうだろうか？」と自分では判断つかないものは必ず、添削してもらうことをお勧めします。この『強者の戦略ホームページ』でもメールにて質問などを受け付けていますので、どしどし送ってきてくださいね。

それでは、今回はこの辺にいたしましょう。次回「東大日本史のみかた」をお楽しみに！！